

意見書 No.	意見の内容
1	<p>同事業はブリリアシティ千里津雲台マンション(約200戸)に与える環境負荷(日照の減少、電波障害、景観及び太陽光発電パネルによる光害並びに同パネルの飛散(災害時、悪天候時))があることから、事業の見直しを強く求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現計画より10m以上セットバックすること。 2 同団地G、H及びI棟については計画9階から7階以下とすること。 3 環境調査を住民が納得する方法で行うこと。 <p>(計画の方法ではUR殿にとり、都合の良い結果しかでないものと思料する。)</p>
2	<p>“熱の島現象解消法”</p> <p>図面による事業計画の津雲台団地の階層は、南千里の駅前辺りからまるで摩天楼のようにそびえたつ竹見台団地よりは、まだましかも知れません。なぜなら駅前にいきなり摩天楼が林立していると、心理的に圧迫感が生じ、息苦しさを感じるからです。そういう意味では津雲台団地は日本では妥当かもしれません。</p> <p>それで箕面まで続く並木道の歩道はアスファルトではなく、なるべく「地道」であって欲しいのです。そうすれば世界に誇れる日本の文化の象徴の一つである健康的な「下駄」が履けるからです。アスファルトではゴムぞうりか運動靴をはかないと、それこそ腰を悪くしてしまいます。かつての泡(あぶく)時代以降、あまりにアスファルトが増え続け、どこもかしこも路地裏まで敷き詰めている。これでは地面が呼吸出来ません。千里中央駅周辺はコンクリートとアスファルトで覆われている為、「熱の島現象」が生じるのも然り。又、地形は袋小路になっていて、自転車にも乗るのにかなり厄介です。地路だからこそ杉花粉等を吸収し、雨によって地中に沈め、溜り過ぎた水分を太陽が適当に乾かすといった循環を考えたい。これらは私のドイツ留学経験から判断しているのであります。以上。</p>